

平成29年度 地方創生活点整備交付金に係る事業実施結果報告
(各交付対象事業の重要業績評価指標(KPI)の実績値等)

都道府県名	福島県	担当部署課名	総務課			
市町村名	浅川町	担当者氏名	高野喜寛			
都道府県・市町村コード(5桁)	07504	連絡先	電話	0247-36-4121	メールアドレス	soumu@town.asakawa.fukushima.jp

No	① 交付対象事業の名称	② 交付金の種類	③ 実績額 単位:円	④ 本事業における重要業績評価指標(KPI)				⑤ 本事業終了後における実績値		⑥ 外部有識者からの評価		⑦ 実績値を踏まえた事業の今後について									
				指標	指標値	単位	目標年月	実績値	事業効果	事業の評価	外部有識者からの意見	今後の方針	今後の方針の理由								
1	地方創生型若者向け定住・移住モデル事業 「事業概要」 当町では、若者の流出、農業の衰退が危惧されている。そのため新規就農者が優先して入居できる環境、若者が安心して住める環境を整備する必要があり、当町における課題解決型の地方創生型定住・移住住宅を先導的なモデル住宅として4棟4戸(4世帯分)を整備することにより、農業後継者となりうる新規就農者の「しごとづくり」と若者の定着から出産・子育て・教育に繋げ、単なる「ハコモノ行政」ではなく、転入による入居者の所得を生み出すことにより地域の活性化が図られ、地方版総合戦略に基づく未来への投資の基盤に繋がる事業としての整備を図る。また、住宅建設による建設業界の活性化、木材使用による林業の振興と循環型社会の推進、住宅団地内に建設することによる分譲地の販売促進、入居者による所得を生み出すことによる地域の活性化、住宅団地内におけるコミュニティの形成など多くの波及効果をもたらすことにより民間による投資も生まれ、町全体の定住促進に繋がるものである。 浅川町大字滝輪宇滝ノ台地内(花火の里ニュータウン内) 木造2階建て 2棟2戸(57.96㎡/1戸)×2=231.84㎡ 17-6区画A・B棟(2戸) 57.96㎡×2戸=115.92㎡ 17-7区画C・D棟(2戸) 57.96㎡×2戸=115.92㎡	拠点整備交付金:次	79,318,000	指標① 定住・移住促進施策による移住者数による所得額	7,420	千円	平成30年3月	9,006	指標② 新規就農者数による所得額	650	千円	平成30年3月	0	①地方創生に非常に効果的であった	総合戦略のKPI達成に有効であった	・計画どおりに進めており、素晴らしいと思う。これからも町活性化に向けて、町民と共に進めていければよいと思う。 ・4世帯11人の入居があり、若者が定着することで花火の里ニュータウンの販売促進にも繋がることを期待する。 ・建設されたモデル住宅に入居されたことは評価できる。 今後、入居された方々が定住されるような環境づくりを促進されることを期待する。 ・若者向け住宅の建設は大賛成で、もっと早くこの事業を展開してほしい。 ・事業資金調達の課題はあるが、花火の里ニュータウンの今後の売れ行き状態を考える時に、空き地問題を解決する良い方法であると思う。 ・入居者がおり、一定の事業効果があったと思われる。 今後、退去後も当町に住み続けて行くよう、色々な特典や税制度面での特典措置を検討してほしい。 ・入居者がすぐに決まり、若者には好評であり今後も続けて実施してほしい。	若者向けの定住・移住モデル住宅としては、新規就農者による目標は達成できなかったものの、町外から5世帯の申込みがあり、入居者選考委員会による選考の結果、建設したモデル住宅の4戸に子育て世帯4世帯11名(うち18歳未満3名)が入居決定となり、当町における若者世代、子ども、所得、いずれも増えたり事業効果があった。 また、今後一定期間(5年以上)の定住及び出生(出産予定者1名あり)による人口増も見込まれ一定の効果があることから、本事業は予定通り事業を終了するものとし、移住者がモデル住宅退去後にニュータウンの分譲地の購入及び住宅の建設に繋がるようにしたい。	予定通り事業終了			
2	地方創生型多世代交流拠点施設整備事業 「事業概要」 当施設は、寄附採納があった旧病院施設であり、幼保一体化施設が隣接する子育て重点地域に多世代交流拠点施設として整備を図るものである。また、利活用促進のため、保健師・保育士と町のボランティア団体による「親子でわくわく教室」や「子育て何でもお助け教室」等を開催するとともに、妊婦から出産、子どもが生まれた後も子育てに関する切れ目ないサポートを提供する総合的なサービスに関係者が一体的に支援する仕組みとなる「ネットワーク」を兼ね備えた施設とすることにより長期的かつ総合的な育児支援がワンストップで可能となる。さらには、施設の改修においては、単独事業による図書館機能の併設により、町民誰もが気軽に訪れ交流が図れる施設として一層の利活用を図るものである。 浅川町大字麓輪宇山敷田地内 多世代交流拠点施設改修 172.07㎡ (旧会病院浅川診療所)	拠点整備交付金:次	16,484,040	指標① 多世代交流拠点施設利用者数	2,500	人	平成30年3月	0	指標②		指標③		指標④		指標⑤	③地方創生に効果があった	総合戦略のKPI達成に有効であった	・企画を次々に立て、情報発信基地になれば更に良いと思う。 ・平成30年度は目標を達成しており、効果はあった。 今後は「利用者増へ向け工夫をしながら進めてほしい」 ・今後も町民誰もが足を運び易い環境づくりを促進してほしい。 ・図書館の創設は町民の願いであったと思う。何より図書館と併設して交流施設が設けられ、土・日曜日の開設は大変助かっており、色々な会議で使わせて頂いている。 ・おはなし会、レク教室等良かったと思う。 今後も世代的交流の場として各種事業を開催して欲しい。 ・空調設備も良く、夏休みの子供達が喜んで利用されたこと、素晴らしい図書館(多世代交流拠点施設)だと思ふ。	施設のオープンが、平成30年4月1日となってしまったことから、平成29年度内の目標である利用人数は達成できなかったが、図書館と併設していることもあり、4月オープン以降、8月までの実績は月平均947人、最高1,156人/4月の施設入館者があり、5か月間の合計では4,734人となり、既に平成30年度の目標値3,000人を上回っている。また、きいてみておはなし会や親子でわくわく教室などでも6回、延べ参加人数109人の参加者があり、夏休み期間中の交流室(会議室)開放では小・中・高生377人の利用実績があり、現在まで一定の事業効果があった。 (参考:昨年までの図書館と図書館での利用人数としても、8月までの利用実績では、前年対比674人の増、145.6%となっている。) 一定の効果があることから本事業は予定通り事業を終了するものとし、今後も、子育て重点地域として、更なる利活用促進を図るべく多様な事業の実施を進めていきたい。	予定通り事業終了	